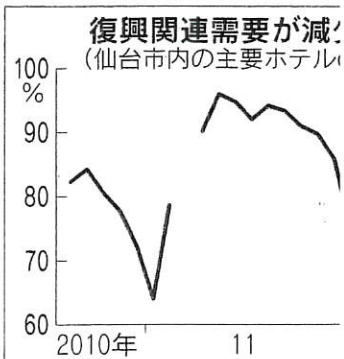
東北

字）になりそうだと発表した。従来予想は5億2千万円の黒字。被災取引先の再建で貸倒引当金の戻し入れ益が発生した。一方、北日本銀行は株式相場の低迷で保有株の減損が発生、今期の純利益

仙台、ホテル稼働率 2.3ポイント低下 9月91%

日本経済新聞社が調べた仙台市内の主要10ホテルの9月の平均客室稼働率は91・0%と、前年同月比2・3ポイント下落した。前年割れは2カ月ぶり。レジ

水産加工業の復旧などに伴い不良債権処理損失が銀の粟野学頭取も「来春以降の復興需要の本格化同行の純利益は4%減の9億8千万円だった。



（注）日本経済新聞社調べ、2011年震災発生のため、データなし。災で休業期間のあるホテルを

仙台は前年同月比0・2ポイント下落の93・2%。紺野純一総支配人は「昨年よりツインルー

不発弾処理で仙台空港閉鎖

きょう9時から

仙台空港は14日午前9時から、滑走路付近で見つかった不発弾の撤去作業のため、最長で7時間

不屈の東北人

KFアテイン社長 川又 貴仁さん

雪下ろし不要の屋根用ワックス

滑る技術で雪国の命守る

「毎年、100人以上の人が雪下ろしや落雪などによる事故で命を落とす。同じ雪国で育った人間として何とかしたかった」。そう話すのは雪下ろしが不要になる屋根用塗料添加剤などを製造販売するKFアテイン（仙台市）の社長、川又貴仁（40）だ。スキー板やスノーボードの着雪を防ぐワックスの製造技術を応用して、屋根に雪が積もる前に落とす製品を開発した。

現在、営業活動で忙しいのは除雪車用塗料。ワックスを含んだ塗料を塗ってショベルに雪が付着するのを防ぐ。両製品とも東北地方や北海道、信越方面から引き合いが来ており、着実に受注を増やしている。

一見、順風満帆のようだが、実はそこに至るまでの間、2度大きな挫折を味わった。1度目は高校の時だ。秋田県から甲子園を夢見て東海大山形高校へ野球留学したが、高3の春に手首を骨折。レギュラーから外れ、チームも夏の県大会決勝で涙をのんだ。結局、どの大学からも声がかからず野球の道をあきらめた。

2度目は東日本大震災で会社が被災したこと。仙台新港近くに移転したばかりの新社屋を津波が襲った。「地震の時、棚が倒れ机の上のものもすべて落ちた。机の下にうずくまって揺れが収まるのを待つしかなかった」。腰を抜かした女性社員を背負って外に出てぼうぜんとしていると、今度は「津波だ、逃げろ」という声。女性を背負ったまま、あわてて近くの高いビルの屋上へ駆け上がった。

下を見ると濁流と化したどす黒い水が周囲の建物や車を次々と飲み込んでいった。この世のものとは思えない光景。今も脳裏をよぎる。「あと20秒遅かったら危なかった」。一晩避難所で過ごした後、事務所へ行ってみると変わり果てた姿に言葉を失った。「もう事業はできない」。無力感で心が折れそうになった。

知人を頼って山形県に避難すると、落ち着きを取り戻し少しずつ気持ちも和らいだ。「こんなことで負けてたまるか」。生来の負けず嫌いが頭をもたげた。同時に胸に去来したのは「これまでお世話になった人や社員のためにも、ここで投げ出すわけにはいかない」という責任感だった。

決断したら行動は早い。昨年4月には技術指導を受けていた宮城県産業技術総合センターの1室を借り、研究を再開。その後、仙台市から仮設事務所を借りることができ、そこを拠点に営業に飛び回っている。

故郷の秋田県鹿角市は豪雪地帯。幼い頃からクロスカントリーに親しみ、姉は国体選手という環境の中で育った。専門学校卒業後、会社員を経て飲食店を始めた時も、心のどこかに「いずれ雪を扱うビジネスがしたい」という思いがあった。独学でワックスの勉強をしたのもこのためだ。

「滑る技術を使った東北一の塗料メーカーになる」。その夢に向かって今はどんな困難があっても乗り切れる自信がある。1度失いかけた命だから。

（山形支局長　高橋敬治）

かわまた・たかひと　1972年（昭47年）秋田県鹿角市生まれ。専門学校卒業後、会社員を経て2005年KFアテイン設立。

支局☎
盛岡 019-622-3012
秋田 018-823-5233
青森 017-722-2343
仙台 022-222-5613
郡山 024-938-7770
福島 024-522-4758
山形 023-622-2072
山田 0233-23-2233